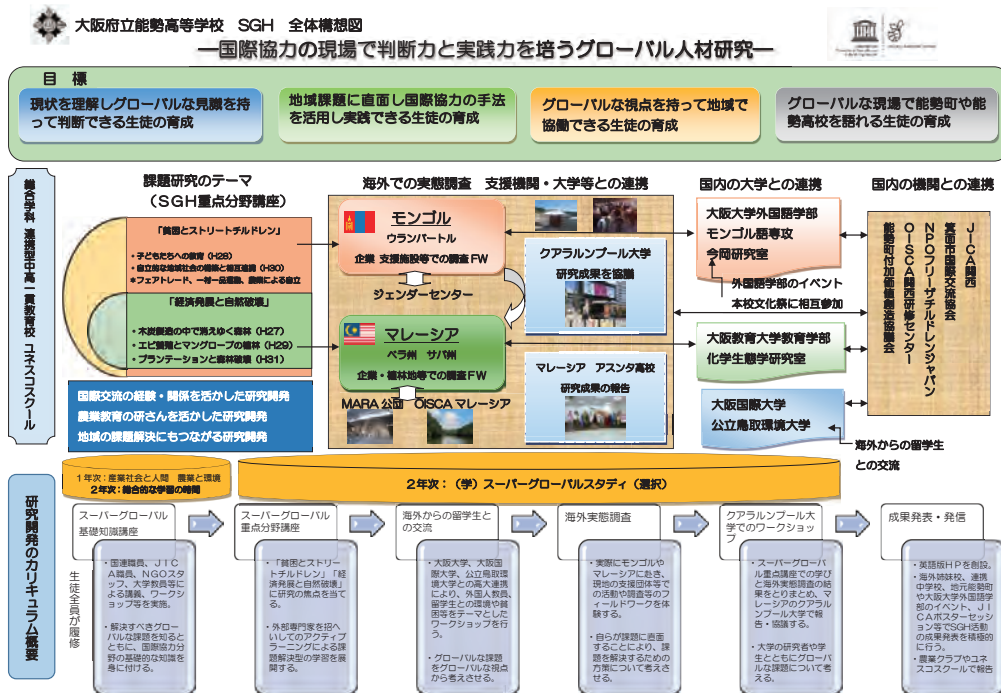


大阪府立能勢高等学校

国際協力の現場で判断力と実践力を培う グローバル人材研究

【構想の概要】

国際協力を受ける当事者と支援する外部者の協働のあり方を理解するとともに、貧困が引き起こすストリートチルドレンへの人的支援や経済的支援のあり方、経済発展の中で破壊される自然環境の保全に対する当事者と外部者との対立と調整のあり方を理解し、双方の立場に立って意見を述べることによってグローバル・リーダーとしての判断力を磨く。また、モンゴルやマレーシアでの支援活動や調査活動を体験し、「ストリートチルドレン解消」「フェアトレード」「一村一品」「植林」「農業による自立支援」という国際協力のあり方を多角的に学び、大阪府民、能勢町民、能勢高校生、人間としてできることを考える。さらに、国内外の大学や高校等と連携し、協議・ワークショップ等を重ねグローバル・リーダーとしての実践的な力を培う。



平成 28 年度入学 教育課程表 (人文・理数系列)

単位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年次		国語総合			日本史A		数学I		化学基礎		体育		保健	芸術				英語I	コミュニケーション			家庭基礎		情報	社会と環境			産業社会と人間	HR	数学A		
2年次		現代文B	世界史A	数学選択	理科選択	体育	保健	英語II	コミュニケーション	総合的な学習の時間	HR							①・②	系列選択				①⑤	自由選択					SGS			
3年次		実践国語B	現代社会	体育	総合的な学習の時間	HR			①・②	系列選択												①⑤⑨	自由選択									

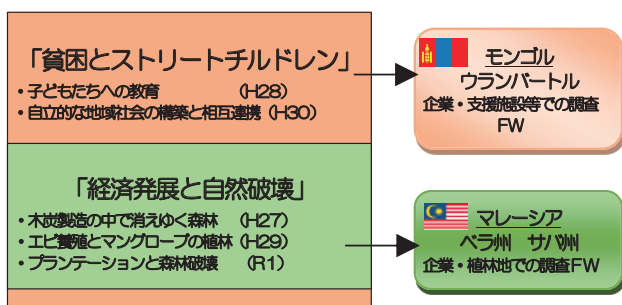
※「産業社会と人間・総合的な学習の時間」及び「SGS(スーパーグローバルスタディ)」を中心として、課題研究を実施している。

課題研究：学校設定科目「SGH 講座」

全員が履修する「スーパーグローバル（SG）基礎知識講座」を設け、産業社会と人間（1年次）、総合的な学習の時間（2・3年次）、各教科で実施した。国連職員、JICA職員、NGOスタッフ、大学教員等による講義、ワークショップ等を実施。解決すべきグローバルな課題を知るとともに、国際協力分野の基礎的な知識を身に付けた。年度末に学年ごとに研究成果発表を行った。

選択履修として「スーパーグローバル（SG）重点分野講座」を設け、学校設定科目「スーパーグローバルスタディ（SGS）」（2年次）で実施した。大学教員の継続的な指導や様々な分野からの外部講師の招聘などで、課題研究に向けた学習を集中的に行った。また、机上の学習だけでなくフィールドワークも重視し、本校の所在する能勢地域での活動や、国内・海外での活動も積極的に行った。

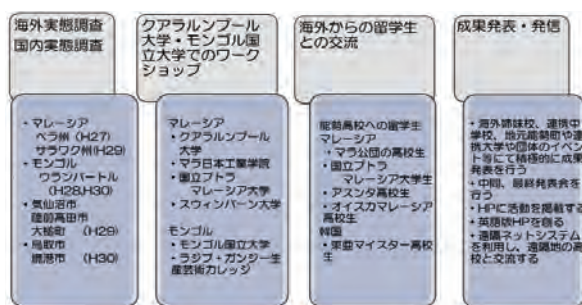
国内・海外実態調査



(モンゴル)

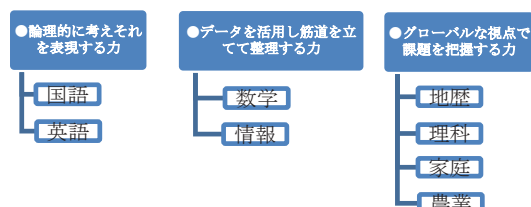


(マレーシア)



各教科のSGHへの取組み

各教科では以下のような役割分担をし、各教科でSGHにおける取組みを進めた。また、各教科でSG基礎知識講座を実施する際には、実施内容について「SGH事務局」と話し合い、事前準備をすすめた。実施後は報告をまとめ、ホームページで公開した。



《各教科の授業におけるSGHの意識》

成果の発表と普及

課題研究の成果発表は、大きな節目として、11月に中間発表を、2月に最終の研究発表会を開いた。特に2月の発表会は地域にある「淨りシアター」で開催し、指導をいただいた外部講師の方々のみならず、地元の能勢町住民の方々にも多数参加いただき、研究成果に対する評価や助言などを直接いただく貴重な機会となった。

高大連携において連携先の大阪大学、大阪教育大学、大阪府立大学、公立鳥取環境大学では、本校生徒が大学の授業に招かれ課題研究発表を行い、大学生との交流の中で研究を深めてきた。

海外の高校や大学での課題研究発表の機会も設け、英語での発表にも計画的に取り組み、その成果は英語検定などの外部試験での合格率の向上にもつながっている。

SGH 後継事業について

本校では平成30年度より、SGH後継事業として以下の事業をスタートし実施してきた。今後SGH事業終了後も継続実施する体制が整いつつある。

①マレーシア：オイルパームプランテーションと熱帯雨林の伐採する事業。②フィリピン：マングローブ林の破壊と植林活動。③ドイツ：シュタットベルケを地元能勢町に活かす。これらの課題探究を通じて、能勢町の課題解決に挑むグローバル人材を育成する。